

15. YAYSAMANENA (5)

即興詩

TANE ANAKNE

今は

ONNEAN KUSU

私たちは年老いたから

平賀サダ 1958年5月4日録音

hao -ne-na	1	ハオ ネナ
yaysama- hao -ne-na	2	ヤイサマ ハオ ネナ
eyoro hao[u] rope ¹⁾	3	エヨロ ハオ ロペ
kor sápo hao utar, ²⁾	4	(私)の姉さん ハオ たち
tane a- hao[u] -nakne	5	今 ハオ は
onnean hao kusun, ³⁾	6	私たちは年老いた ハオ から,
akor si- hao -notca	7	私たちの う ハオ た
sinotca hao póka	8	歌 ハオ だけでも
aye wa aanú ⁴⁾	9	歌っておき
kusu hao -ne-na.	10	ま ハオ しょうね.
hao[u] yaysama	11	ハオ ヤイサマ
hao[u] -ne-na! ⁵⁾	12	ハオ ネナ!

1) eyoro-ro-pe は、沙流川の中流・上流の方では iyoro-ro-pe という。即興詩のはやしのリフレインとしてよく出てくる。

2) kor は《...を持つ》という意味の動詞で、...kor sápo utar は《...の姉さんたち》。人称接辞がついていない。なぜ kukor 《私の》と言っていないのか不明。ekor 《あなたの》かもしれない。

3) kusu. 語末の n は歌い方で出たもの。

4) 《言っておく》。つまり、歌を歌って死後にのこすことを言っている。

5) ne na の部分はメロディーからはずれて、高い声で、感嘆文の音調で言っている。

kukor oper! ¹⁾	13	おじょうちゃん!
<i>mata an ro.</i>	14	またやろう.
eyoro hao rope	15	エヨロ ハオ ロペ
ren ane ki wa	16	私たち3人で
hao	17	ハオ

老いの嘆きをテーマとする、前の歌を聞いて、こんどはサダモさんが、「私たちは老い先が短いから、せめて歌だけでも残しておこう」というテーマの即興詩を歌った。このふしも、よく歌われるふしである。

はやしのリフレイン hao が、ときには1語の中に割って入っている。たとえば5行目で、anakne《は》の a- と -nakne の間に hao が入っているが、anakne (anak-ne) は、語頭の a と n の間では分析できない。語源分析をしても anakne となる。

12行目までを hao の部分を除いて書くと、次のようになる：

... ne na	1	...ネナ
yaysama-ne-na	2	ヤイサマネナ
eyoro rope	3	エヨロ ロペ
kor sápo utar	4	(私)の姉さんたち
tane anakne	5	今は
onnean kusu	6	私たちは年老いたから
akor sinotca	7	私たちの歌
sinotca póka	8	歌だけでも
aye wa aanú	9	歌っておき
kusu ne na.	10	ましようね.
yaysama-ne-na	11	ヤイサマネナ
yaysama-ne-na	12	ヤイサマネナ

1) 当時未婚で若かった田村に対する呼びかけ。

上には、歌詞のまとまりによって行分けしたが、ふしのまとまりによって分けると、次のようになる：

hao -ne na yay-
sama- hao -ne-na.
eyoro hao[u]
rope kor sápo
hao utar,
tane a- hao[u]
-nakne onnean
hao kusun
akor si- hao -notca sinotca
hao póka
aye wa aanú kusu
hao[u] -ne-na.
hao[u] yaysama-
hao[u]
-ne-na!